



夏休み突入！最近のまちなか鳳雛塾は・・・

いよいよ待ちに待った夏休みが始まりました！この期間は、自分の苦手分野を克服したり、新しいことに挑戦したりできる絶好のチャンスです。

まちなか鳳雛塾でも、この夏だからこそできる特別講義をスタートし、生徒一人ひとりの学びをサポートしています。また、受験を控えた高校3年生たちは、いよいよ本格的な受験モードへ。塾内にもこれまで以上に集中した空気が広がり、それぞれが目標に向かって熱心に学習に取り組んでいます。今月号では、その様子の一部をご紹介します！

数学の基礎を固めよう！

夏休み期間を活用し、数学Ⅰ・Ⅱの特別講義が始まりました。この講義では、1学期に学習した内容を振り返りながら、公式や基本的な考え方など、基礎を中心に丁寧に復習を進めています。数学は積み重ねが大切な教科だからこそ、「分かったつもり」をなくし、土台をしっかり固めることを目的としています。

初回の講義には、1年生を中心に3名の生徒が参加しました。演習問題に取り組みながら、自分が理解できている部分と苦手な部分を確認し、必要に応じて質問する姿も見られました。間違えた問題をそのままにせず、一つひとつ原因を確認しながら理解を深めることで、着実に力を身に付けていきます。

夏休みはまとまった時間を確保できる貴重な期間です。この機会を生かし、基礎を固めることが2学期以降の学習や受験に向けた大きな自信につながるはず。今後も演習を重ねながら、「できる」を少しずつ増やしていきましょう！



受験モード真っ只中の3年生



受験を控えた3年生たちは、この夏から本格的な受験モードに突入しています。塾内でも、集中して学習できる「レベルアップルーム」を使うことがほとんどです。この部屋では完全私語厳禁。静かな空間の中で、自分の課題と真剣に向き合っています。

勉強のスタイルは生徒によってさまざまです。課題に黙々と取り組む生徒もいれば、自由に利用できるiPadを活用し、動画教材で苦手分野を繰り返し学習する生徒もいます。それぞれが自分に合った方法を見つけながら、着実に学習を進めています。

また、中には自分自身を奮い立たせるため、壁に志望校や目標、学習計画を書いた紙を貼り、毎日その言葉を見ながら勉強に励む生徒の姿もあります。一つひとつの積み重ねが未来につながることを信じ、自分自身と向き合う時間を大切にしている様子が伝わってきます。

夏休み前と比べると、3年生の表情は一段と引き締まり、学習中の集中力も大きく高まりました。以前は友人同士で談笑する時間も見られましたが、今では教室全体が自然と静まり返り、受験に向けた緊張感が漂っています。この夏の努力は、きっと受験本番でも活かされます。まちなか鳳雛塾では、生徒一人ひとりが目標を実現できるよう、最後まで全力でサポートしていきます。

プロジェクト10周年インタビュー

プロジェクト発足から10年が経ちました。塾生や保護者の皆様、卒業していったスタッフ、地域の皆様・・・たくさんの方々の協力があったからこそ、ここまで続けることができました。今回は、関係者の皆様へ、魅力化プロジェクトに関する思い出をお聞きしました。

卒塾生保護者 Sさん

小中学校のときから鳳雛塾に通わせてもらっていました。定期テストだけではなく検定を受けるときにもスタッフの方々から手厚いサポートをしていただき勉強に対する姿勢が変わったと思います。

震災があり様々な困難がある中での生活だと思います。なかなか復興も進まない中だからこそ高校生の力やアイディアは必要なのではと考えていますのでなにか力になれることがあれば声をかけてもらえればと思います。

スタッフOB 杉林さん

当初は自分からやりたいことを口にしたり行動を起こすことができなかった生徒が、Project COLORSや探究活動を通じて多くの大人と関わりつづけたことで、自分のやりたいことを形にするべく自ら行動を起こせるようになった姿を見て、生徒の成長を感じていました。今は大学に戻り、水産業から能登を活性化させることができると信じて水産学を勉強しています。これからも能登へ足を運ぶので、関係人口となる水産関係の仲間を連れてきます。

卒塾生 Dさん

まちなか鳳雛塾があったことはとても魅力的だったと思います。現役東大生が来たり、オンライン指導で卒塾生と一対一で分からないところや勉強法を教えてもらえたりと、現役大学生と会話できる機会が多くあったことは他の地域にはない魅力でした。

今は都会への憧れが強いので将来的に戻りたいという気持ちは弱いですが、時折能登の美味しい海鮮が食べなくなったり、友達と集まりたかったり、地元ならではの落ち着いた感じを懐かしんだり、やっぱり能登が好きだと気づきました！

能登町役場 網屋さん

まちなか鳳雛塾や地域学「鳳雛ゼミ」を通じ、高校生が大人と地域課題に挑む姿が日常となりました。特産品開発など町を舞台にした探究活動も活発です。地域と深く関わる中で故郷への愛着が育まれ、「将来は能登の医療や産業を支えたい」と志す若者が増えたと実感しています。

また、留学生や関係人口が呼び水となり、移住・起業の輪が広がることも期待しています。個々の活動が結果として町への貢献につながる、そんな未来を描いています。

あばれ祭に参加！



7月3～4日に開催されたあばれ祭。地域みらい留学生を含む能登高校の寮生4名が、両日ともに参加しました！

今回私たちが目指したのは、祭りを「見る」だけではなく、「参加する」ことです。地域の方々とキリコを担ぎ、掛け声を合わせる体験を通して、あばれ祭が地域の人々にとってどれほど大切な存在であるのかを実感してほしいと考えたからです。生徒たちは祭りの始まりから終わりまで、祭りの世界を存分に体感しました。

能登の祭りは、地域の人々の絆や歴史、文化が受け継がれる、この町にとって欠かせない大切な営みです。こうした体験から学びを得て、能登ならではの実りある高校生活を過ごしてほしいと願っています。

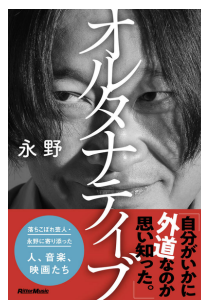
最後に、今回の参加にあたり、高校生たちを温かく迎え入れ、貴重な経験をさせてくださった下岩屋町内会の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！

RECOMMEND

まちなか鳳雛塾STAFF

わたしのすきなもの

VOL.3 松澤 響



オルタナティブ

永野 著

芸人・永野さんのエッセイ『オルタナティブ』です。

前職では、いわゆる「普通のサラリーマン」として働いていましたが、その『普

通の』生き方にどこかつまらなさや息苦しさを感じていました。そんな時にこの本と出会い、自分の中にあった違和感が初めて言葉になった気がしました。永野さんは世の中の「普通」や「正解」を、皮肉と毒を交えながら容赦なく切り崩していきます。決して優しい本ではありませんが、その鋭い言葉だからこそ、自分の感覚を信じてもいいのだと思えました。今でも折に触れて読み返したくなる、大切な一冊です。